

クローバー通信

新センター長あいさつ

内科学（血液・腫瘍）

三谷 絹子

平成 28 年 1 月 1 日より、女性医師支援センター長を拝命致しました三谷です。最近は学会等で男女共同参画に関するお仕事に携わることが多くなり、今後は女性医師・研究者の育成が私にとって大事な使命になると考えていた所でしたので、望月善子教授の後任を引き受けさせて頂くことにしました。私自身がそうした年回りになったということだと思います。

センターのハード面は 3 年間かけて望月教授がすでに構築して下さっています。定期的に行われる“クローバー交流会”、個別の相談支援、集いのサロン“クローバー”の設置とイブニングシッターサービス、講義を通じた男女共同参画意識の醸成等です。これらの中には私自身がまだまだこれから理解を深め、学ばなければいけないことがたくさんありますが、望月教授のご業績を大事に守り育てていきたいと考えています。

女医が産休・育休後に復職をするのは、当たり前の時代になりました。女医も男性医師と同等の能力があります。個人として、その能力を伸ばし、社会に参画していくことは当然の権利だと思います。もちろん、配偶者及びご家族の理解が必要となりますが、産休・育休後の復帰を支援センターは万難をあげて応援させて頂きます。私にとっても教え子の女性医師が、獨協医科大学病院と栃木県の地域診療に貢献してくれるのはとても嬉しいことです。出産・育児を契機にそのキャリアを中断してしまうことがないように応援をして参ります。

男女共同参画の問題は一朝一夕では、解決しそうにありません。日本における女性の社会進出の程度は極めて低く（世界で 100 位くらいの順位に留まります）、共同参画は事実上多くの場合掛け声のみに終わっています。その背景には、女性の社会進出をよしとしない、男性側の根強い意識の問題があり、それ故に女性は自分の能力を最大限に伸ばす機会を失っています。女性が上を目指す場合には、男性と同等あるいはそれ以上の業績が求められますが、それは特別な場合を除いては達成困難です。今後大学病院が、あるいは、本学がどのような形で組織としてこの問題に取り組んで頂けるのか、注目しています。女医はただの労働力ではありません。女医が自らの将来に希望が持てるような組織の体制が必要です。

私が担当している血液・腫瘍内科の教室はとても小さな医局ですが、皆で仲良く和気藹々と仕事をしています。女医の多い医局で、医局長は学内講師の仲村祐子先生（卒業生）で、若手の女医は（私が特に何かをしたのではありませんが）当然のように出産後、お子さんを抱えて復帰をしてくれています。元気な女医さんの輪が大学病院全体に広がることを祈念しています。新しい女性医師支援センターをどうぞ宜しくお願いします。

集いのサロン“クローバー”は全教職員、学生ともに 7 時から 21 時まで開放しておりますのでご利用下さい。

「イブニングシッターサービス」として、学内の研修会や医局会などに参加する際にお子さまをお預かりしています。ご利用の 1 週間前までにご予約下さい。

なお詳細はセンターの HP (<http://www.dokkyomed.ac.jp/jyoseiishi/>) をご覧下さい。